

# FD 通信 No.9

飯田女子短期大学 FD 委員会

<http://www.iidawjc.ac.jp>

## 学生の学びと FD 活動

FD 委員長 北林ちなみ

授業では全過程を見据えた長期目標と1コマ1コマにおける短期目標を設定することで、教員自身がその目的を明確にしておくことが必要です。毎日が川の流れのように過ぎていく中で、行っている授業が学生にとっていかに学べているかを常に考えていくことが重要といえます。

今年度のFD活動は昨年までと同様に、各教員主体で実施できた1年でした。FD活動として、授業改善アンケートや学内公開授業の実施と結果の検討、FD研修会の実施などを行いました。学内公開授業においては昨年度と同様に、希望の授業を参観するかたちで行いました。今年度は学科外の科目も参観できるようにしました。自分が希望する授業を参観することにより、より興味をもって授業内容を聴講し、授業運営や教材改善に取り組むことにつながります。実施者、参観者双方にとって良い授業のあり方を考える機会となっていると思います。

本来ならば今年度はFD講演会を行う予定でしたが、昨年度のFD研修会で明らかになったそれぞれの学科の課題と対策を今年度実施した結果と評価を行うことが重要と考え、再度FD研修会を行うことにしました。今年度も多くの教職員の出席があり、FDに対する意識が高くなっていることが伺えました。研修会最後の発表により、各学科で教員が自分の授業運営や学生対応などを振り返ったことがわかりました。現在行なっている授業を確認したり見直したりできる機会を持つことで、学生の学習成果獲得へつながると考えられます。

授業改善アンケートでは、学生の授業評価の結果を出して終わるのではなく、授業内容、方法の改善につなげるのが重要です。授業を行う目的は、最終的に科目の達成目標が全受講生に達成され学習成果が獲得されることです。各教員がシラバスに到達目標や授業内容、評価方法などを明示し、評価内容と評価方法によって出された成績(評価結果)を参考に学習成果の評価を行うことで次年度の授業へ生かすことができます。また評価結果と学生による授業評価の結果、加えて学内公開授業の実施やFD講演会・研修会への参加などが一連に結びついていき、学習成果のPDCAサイクルが回転できるようなFD活動を展開することが必要と考えます。

FDにより本学の教育活動がより良いものになることが、学生にとってまた学生が卒業後に活躍する地域にも重要であり、それが短大の責務と言えます。FD委員会では教職員全体の意見を聞きながら、さらに充実したFD活動を考え実践していくつもりです。

## 目次

学生の学びとFD活動	FD委員長 北林ちなみ	ページ1
<FD研修会>キャンパスライフに対する学生満足度アンケートから見える学生の成長と課題		
	FD委員会研修担当 刈部亜美	ページ2
家政学科 坂上ちおり / 幼児教育学科 山本由紀子 / 看護学科 川尻由美子		ページ2
<特集: キャリアデザインでの取り組み>		
家政学科 家政専攻 田中洋江 / 生活福祉専攻 熊谷教 / 食物栄養専攻 友竹浩之		ページ4
<キャンパスライフに対する学生満足度アンケート実施結果>	教務課長 山口正之	ページ7

## <FD 研修会>

### ～キャンパスライフに対する学生満足度アンケートから見える学生の成長と課題～

去る3月1日(水)にFD研修会が開催されました。昨年のFD研修会では、平成26年度と27年度の「キャンパスライフに対する学生満足度アンケート」結果をもとに明らかとなった課題と対策についてまとめました。今年度は、昨年度の反省点をふまえ、今年度どのように取り組むことができたのか、今年度の学生満足度アンケート結果もあわせてのディスカッションと「各学科・専攻の自己点検評価に挙がっている課題」について、各学科に分かれてグループディスカッションを行いました。

学生満足度アンケートは3年分のデータをもとに分析を行えたことで、各学科・学年の様子を知ると共に、2年間にわたっての学生の成長、変化を知ることができました。昨年と同様に「プレゼンテーション能力の向上」と「リーダーシップ能力の向上」についての評価の低さは多くの学科で今後の課題としてあがりました。これらについて、初年度から教員の意識的働きかけをすることにより、学生の成長に繋がるという意見がありました。今の学生にあった「学ぶ楽しさを感じられるきっかけ作り」や「仕掛け」が重要であるという意見がありました。

また、本校の特色として、多くの学生は資格取得をして卒業していきます。そのため、「資格が取れるだけで終わらないよう、時には厳しさも伝えていく必要がある」という意見もありました。今回の研修会は、学科を超えて教員全体で学生像を共有できる研修会となりました。

(文責 刈部亜美)



## 一 (いち) 教員としての「つながり」の体験

家政学科 坂上ちおり

大学教員は、個々に専門性があり、物理的に研究室も離れていることから、互いがどのようなことを大切に学生指導に向き合っているのか等、それぞれの先生方が感じておられることや思いを共有する機会を日常ベースで持つことが難しいと感じています。私自身、学生指導にどう向き合うのか、何に困っているのか言語化することなく日常に流されてしまっており、何か孤立感のようなものを持つこともあります。

今回の研修会を通して、教員同士で学生の見立てを共有し、関わり方を見直すことができました。学生指導に問題を感じたり戸惑っていたのはひとりではないことを確認できましたし、今後、前向きに学生たちと関わっていこうとの気持ちになることもできました。研修を通して教員同士の「つながり」の体験を得、そのことが学生への関わりへの気持ちを高めてくれたように感じます。

余談ですが、私はスクールカウンセラーとして、学校現場で先生方の困り感にお付き合いしながら生徒さんへの関わり方についてご相談に乗っています。その場では、私は当事者である先生方の困り感を当事者ではない立ち位置から眺めているわけです。

一方、今回の研修会では、一教員当事者としての体験を省察するよう引き戻された時間でした。この一教員としての「つながり」の体験が、今後の心理職としての活動にも何か重要な示唆を与えてくれたような気がしています。もちろん一教員として学生への関わりへも。

## <FD 研修会感想>

FD 研修会に参加した先生方に、参加後の思いや感想をお寄せいただきました。

### 「FD 研修会での振り返り」

幼児教育学科 山本由紀子

昨年度に引き続き、今年度のFD研修会も学生満足度アンケート等を基に学科教員によるグループディスカッションが行われた。昨年度は、学生自身が学習面などでの達成感や自信を持つことが全体的な満足度につながるのでは、という考察がなされた。そのために、学科教員としては「～ができていない」という評価よりも「～ができています」という評価をするという目標を立てていた。また、全体的に手厚くしすぎず厳しすぎず、『育てる』という意識をしていくことが大切だというまとめとなっていた。今年度はこの目標について、各教員意識しながら進めていかれたのではないかと、いう印象を持った。例えば、自分たちで考えて行動するという活動や、自分の考えを書くという時間を、各授業で増やした。アンケートの結果を見ると、2年生は文章力や挑戦しようとする能力などの自己評価が上がっていることに加え、昨年度1年生と今年度1年生を比較しても、文章力では「全くあてはまらない」という学生はいなくなっていた。今年度の取り組みが結果と因果関係があるかは明らかではないが、こういった取り組みは継続していくことが重要であり、内容的にもその価値があったのではないかと感じられた。来年度に向けてまた新たな課題も提案され、学科教員間で意識を共有することのできる有意義な時間であったと実感した。



### 「FD 研修会に参加して」

看護学科 川尻由美子

看護学科では、平成26・27年度の学生満足度アンケートより明らかとなった課題と対策についてと、自己点検評価に上がっている課題について話し合いが行われた。

アンケート結果からは昨年度と同様に、「リーダーシップ能力」と「プレゼン能力」に関する評価が低いことが分かった。また、自己点検評価の課題では、入学時より学習方法がわからない学生が増えているという課題が見えてきた。他にも多くの課題が上がったが、教員が学生と関わる中で一番大切なのは、学生が何のために学ぶのか、しっかり学びの必要性が理解でき主体的に行動できるよう導いていくのではないかと感じた。学ぶことの楽しさ、知る喜びを感じることで、自ら学習に取り組むことができるようになるのではないかと。それが課題の解決に繋がっていくように感じる。

学生との関わりの中で自分は何ができるのか、1人ひとりの学生と真剣に向かい合い、しっかり考えこれからの行動に繋げていきたい。これからも学生と共に、成長していけるよう日々精進していく。

＜特集：キャリアデザインでの取り組み＞ 各学科専攻で実施されているキャリアデザインの授業についてご紹介いただくコーナーです。今回は、家政学科3専攻での取り組みについて原稿をお願いしました。

## 家政専攻 「キャリアデザイン」の取り組み 家政専攻 キャリアデザイン担当 田中洋江

家政専攻の「キャリアデザイン」は、平成24年度から1年生必修科目としてスタートしました。当初、家政学科の全専攻（家政専攻、生活福祉専攻、食物栄養専攻）合同で行われましたが、その後、専攻ごとに分かれて行われるようになりました。今年度の家政専攻の取り組みを報告させていただきます。担当教員：三浦、安富、波多、青木、奥井、田中、坂上、仙波

◇自分史の作成（9コマ）……各自、自分史づくりに取り組んでもらいます。まず授業の目的を説明した後、自分史を書くためのアコーディオンブック（A4、6ページ）を作成します。アコーディオン（蛇腹）式は、ページをたたみ本のように読むほか、伸ばして最初から最後まで一覧できるメリットがあり、この課題に適しています。自分史の最初のページは自分の誕生から5歳まで、小学校中学校高校時代、現在、最後に将来を書きます。文字だけでなく、写真、イラストも積極的に用いるよう勧めます。自分の過去を振り返り、自分を深く見つけ、自己実現を目指す課題となり、また、後期科目「生活学演習」の履歴書作成に繋がります。

自分史を書き進められない学生のために、今年度新たに心理で使われるワーク「自己紹介すごろく」、「自己概念」「過去 現在 未来の意味づけ」を行いました。

授業の冒頭、その回を担当する教員が自身の自分史を話す時間を設け（20分程度）、一人ひとりがよりよく生きることを考えるヒントとしています。

◇ようこそ先輩（2コマ）……若手（本学卒業生 雑貨店、病院勤務）、ベテラン（本学図書館 小池さん）3人からキャリアの話を聴き、感想文にまとめ、自分が働くことについて考えてもらいました。

◇講座（4コマ）……①「女性のからだとキャリアデザイン」（三浦）②「人生と法令（基本的知識を中心に）」（奥井）③「社会と法令（労働法を中心に）」（奥井）④「仕事に役立つデザイン」（青木・田中）で、今知っておくとよいと思われる話や実技を行いました。

◇授業を終えて 自分史は、自らを振り返り分析できた人とできていない人の両方が見受けられました。楽しんで取り組めた学生、真面目に取り組んだ学生は、画面にそれが表れていました。書き進められない学生には授業中に個別に指導しますが、この授業の中だけでは解決しきれない部分もあります。本学で学び、経験を重ねていくなかで、学生が徐々に将来について自分の答えを見つけられるよう、後期の「生活学演習」を含め全学生生活のなかでサポートできればと考えます。



「仕事に役立つデザイン」  
養護教諭、医療事務、デザイン系の仕事のシーン（保健室、病院受付、雑貨店レジ横など）をイメージし、カードを制作。

## 生活福祉専攻でのキャリアデザインの取り組み

生活福祉専攻 キャリアデザイン担当 熊谷教

本年度、生活福祉専攻ではキャリアデザインのテーマを「チームワーク力」として取り組んできました。到達目標を①介護福祉士として働くことが具体的にイメージできる、②チームケアを実践する職業人としての資質を形成する、③自分のキャリアを見通して、計画を策定することが出来る、以上の3つとして授業を展開しました。

今までも、卒業生を迎えて話を聞く「ようこそ先輩」を2回実施し、「介護福祉士に必要な力は何か」を考える場にしてきました。その中で特に今年度力を入れたのが「チームワーク力」の形成です。チームケアを実践する職業人として欠かせない力であることは従来の授業からも挙がってはいましたが、実践する場がなかなか持てないということで、思い切って今年度は宿泊授業を実施しました。

学園の「蓼科山の家」で一泊し、生活体験とグループワークのプログラムを実践しました。また夕食後に卒業生に来てもらい、「ようこそ先輩」も行いました。この体験に入る前に学生には「自分はどのような姿勢で参加するのか」を意識してから実施しました。結果として学生は終了後の4段階での評価で「チームとしての意識を持てた」「自分の役割を意識できた」「メンバーと協力して活動できた」などの評価項目が、94～100%で「とてもよくできた」との高評価でした。ともに何かを達成することの体験を通して、学生たちは「人の意見を聞き、考えが広がった」「自分の役割を意識して、全体を見ながら動けた」「声を掛けあうことでチームワークが発揮できた」と振り返っています。

この宿泊授業後、先輩からの話も含めて「介護福祉士に必要な力は何か」を考える授業を持っています。学生達は自分達だけでなく、周囲の環境も含めて考えることが出来ており、また、それを図式化して発表する過程でもチームで助け合っていました。

この授業では机上で知識を学ぶことより、学生が主体的に考える力をつけることを目指し、「協働する」力がつけば今後の人生に役立つと考えています。今後の学生達の「チームワーク力」に期待をしています。



## 「食物栄養専攻のキャリアデザイン」

食物栄養専攻 キャリアデザイン担当 友竹浩之

食物栄養専攻のキャリアデザインは、前半の第1回～4回で、社会人になるにあたっての心構えについての話をしています。本来は進路選択のきっかけになるような内容が入るはずですが、本専攻の場合、進む分野（取得する資格）を決めてから入学してくる学生がほとんどなので、自己分析や社会人基礎力についての演習を毎回1時間程度行っています。学生たちは、熱心に聞いてはくれますが、入学したばかりということもあって、ピンとこない部分もあるのかもしれない。

演習の最後には、10分程度、仕事を扱った絵本や漫画を紹介しています。

第1回「パパの仕事はわるものです」(岩崎書店)、第2回「どんまい」(集英社)、第3回「バンビーノ」(小学館)、第4回「たくなび」(小学館)

演習終了後、残りの30分は、学生課の職員より、具体的な就職活動の話をしていただいています。

就職活動スケジュールのほか、給与、保険など、進路選択の際に知っておくべき内容について、説明を受けます。食物栄養専攻の学生のほとんどは、2年生になってから活動を始めるので、忘れてしまう学生も多いかもしれませんが、ここで学生課の職員と顔を合わすことで、相談には行きやすくなっているようです。

今年度は、第5回に、「社会人に必要な力 ー接遇・マナーー」として、ハローワーク飯田の担当者に声の出し方、おじぎの仕方などを実際に練習しました。

第6回以降は、「栄養士に必要な力」として、専門的な内容を取り入れています。入学前教育として、やってもらった課題（計算問題、レシピ作成など）について、添削や解説を行い、レポート作成時の誤字を防ぐために、漢字検定の模擬試験も実施しました。

第9回目以降は、専門への関心を高めてもらう目的で、実技的な内容を取り入れています。とくに、作法を学ぶ茶道体験は毎年人気があります。

第14、15回の「ようこそ先輩」では、現場で活躍する卒業生に、短大時代の様子、就職活動、現在の仕事内容などについて説明してもらった後、質問用紙に記入した個人的な質問に直接答えてもらっています。

今後も専攻の教員や受講した学生に意見を聞きながら、進路選択や専門につながる科目にしていきたいと考えています。



## キャンパスライフに対する学生満足度アンケート実施結果 ～能力知識の変化・教育への満足度の全体傾向について、前年度との比較～

教務課長 山口正之

キャンパスライフに対する学生満足度アンケート（平成28年度）で、学生の『能力知識の変化・教育への満足度』を調査し始めて3年が経った。このアンケートは、学生の知識・能力の変化、教育に関する満足度を調査し、教育内容の成果、教育活動の充実を図るためのものである。調査方法は昨年度と同じ4段階の選択肢で行った。対象学生数は495、回収数444、回収率89.1%（昨年度85.7%）であった。

『入学した時点と比べあなたの能力や知識の変化について』の問いについて全体的な傾向としては、昨年同様の項目の満足度が高かった。

「専門分野や学科の知識が向上した」が当てはまる、まあまあ当てはまるが98.2%（昨年度97.2%）で昨年同様最も満足度が高く、次いで「他の人と協力する力が向上した」が91.6%（昨年度90.2%）であった。

満足度が低い項目は、「リーダーシップの能力が向上した」が61.3%（昨年度60.6%）「プレゼン能力が向上した」が61.9%（昨年度54.9%）であった。今回、プレゼン能力が向上した学生が昨年度より5%増加している。満足度が低い項目は、学生自身が能力の向上を実感するのが難しい項目である。昨年度のFD研修会で各学科・専攻で話し合い、一年間学生の能力向上へ向け、授業での取り組みや、意識づけを行った成果が能力向上につながったのだと思う。引き続き、今年度の結果を踏まえ、取り組んでいってもらいたい。

『教育への満足度について』の問いについて全体的な傾向としては、昨年度よりも当てはまるに回答する学生が多かった。満足度が高い項目は「専門科目の授業」が95.3%（昨年度93.6%）、満足度が低い項目は、「クラブや同好会活動」が74.9%（昨年度73.7%）、次いで「学習に関する支援・アドバイス」が81.2%（昨年度77.6%）だった。学生が教員へ相談しやすくなるように、オフィスアワーを上手く利用するよう学生へ周知し、活用してもらうように促していきたい。

『自分の学生生活に満足している』の質問に対する学生の満足度は81.8%（昨年度77.4%）だった。今年度の学生満足度調査では、全体の満足度が上がっている傾向がみられた。

FD研修会で話し合われた学科での取り組みが広がりを見せ、学生の能力向上につながっていることが今年度の結果につながった。今年度行われたFD研修会で話し合われた取り組みが、次年度の学生満足度にどう反映していくか今から楽しみである。

### 編集後記

FD通信9号をお届けします。お忙しい中、寄稿にご協力いただいた先生方に感謝申し上げます。今回の特集ではキャリアデザインの授業を取り上げました。各学科ではどのようなことを実施しているのか、情報を得る機会にさせていただけたらと思います。本通信で多くの情報が共有され、今後のFD活動がより充実したものになることを願います。

（編集担当：岩瀬彩香）

飯田女子短期大学FD通信 No.9（発行日 2017年3月31日）

FD委員会委員長 北林ちなみ

委員 相澤里美 岩瀬彩香 刈部亜美 熊谷教 本島幸子 山口正之 山下梓

※FD通信へのご意見ご感想をお待ちしております。 [fd@iidawjc.ac.jp](mailto:fd@iidawjc.ac.jp)